

# 地域活動 子どもたちと一緒に

## 商店街に小学生130人の作品あすから幸手

幸手市の東武日光線幸手駅前商店街で5〜8日、市内の小学生ら約130人の作品を店などに置いて展示する「アートさんぽ展」が開かれる。仕掛け人は地元彫刻家だ。

さんぽ展を提案したのは、地元でアート塾「学びっ人村」を運営する彫刻家の小林晃一さん(66)。8月末、幸手市立長倉小学校の図工室に6年生80人余りのアート作品が並んだ。夏休

### 地元彫刻家・小林晃一さん提案



小林さん(左)に自分の作品を説明する子どもたち=いずれも幸手市

み中に作ったものだ。

小林さんは児童と向き合いながら完成度をチェックする。「こいつはよくできたねえ」「ポンドでもっと補強しないと壊れちゃうよ」などとアドバイスした。どんぶりのうどんから延びた紙粘土製の1本の麺が特徴的な「たまごうどん」は、製麺店に展示される。粘土で分厚く作った1万円、5千円、千円の「札束」は、銀行の支店に陳列される。木の椅子に座ってカットを待つ子羊の人形は、美容室に置かれる予定だ。長倉小の井上弘江校長は



子どもたちの作品。右が「たまごうどん」

### 避難所への案内板作り 草加

小林さんは草加市でも、元看護師の服部満生子さんが市内で運営する「みんなの保健室 陽だまり」を拠点に、子どもたちを地域活動に巻き込もうと考えている。

「お店の人と相談しながら作品作りを進めた子が多かった。今度の経験ですごく成長しました」と話

す。さんぽ展には、学びっ人村の小学生54人も参加する。

手始めとして、災害時を

想定した避難所への案内板を、小学生と高齢者が協力して作ることを計画した。材料の木材を調達するため、川西港さん(小5)と蒼さん(小3)、兄弟が近所の製材所に駆け出すと、総谷清さん(85)も「面白くなりそうだ」と兄弟に同行した。



8月の終わりにあった打ち合わせには造園業や建築士、子どもの居場所の運営者ら多様な顔ぶれが20人ほど集まった。草加市議の矢部正平さんは3歳と1歳の子どもといっしょに参加した。「これまで集まるのは高齢者が多かったが、子どもたちとの関わりに動き出したのは歓迎。自分もお手伝いしたい」と話した。

8月の打ち合わせ会。小林さん(右)が大きな紅サケの「案内魚」を示しながら説明した。草加市

(ライター・菅沼栄一郎)